

平成23年度 三重大学修学達成度評価
— 三重大学生の「4つの力」に関するアンケート調査 —

報告書
(概要版)

高等教育創造開発センター
教育評価部門



調査結果 - 4つの力について -

調査1（学部1年生対象・春実施）、調査2（全学部生対象・秋実施）における、「感じる力」「考える力」「コミュニケーション力」「生きる力」に対する回答をまとめた。



1.1 全学生の4つの力

1.1.1 全学生の「感じる力」

(1) 8つの「感じる力」について

本調査では、大学の学習への動機づけを感じる力を24項目で設定し、8つの概念に分類している。8つの概念は、以下の通りである。

効力予期	学習をやり遂げることが出来ると感じること
利用価値	学習が自分の将来に役立つという価値づけ
社会的利用価値	学習が他者や社会に役立つという価値づけ
興味価値	取り組む課題が面白いと感じる価値づけ
私的獲得価値	学習することによって、なりたい自分に近づけるという価値づけ
感情的要因	学習に対して感じる感情
社会的環境	学習をサポートしてくれる他者の存在
動機づけ総合指標	大学での学習に積極的に取り組む姿勢

各項目に対して、「1：全くそう思わない」から「5：非常にそう思う」の5段階で回答を求めた。8つの感じる力について、在籍年数別に平均値を算出した。平均値が高いほど、学習への動機づけを感じていることを表す。また、「動機づけ総合指標」に関する項目は、大学の学習にどれだけ動機づけられたかをたずねる設問であるため、入学直後の調査1では質問項目には含まなかった。

その結果、「利用価値」、「社会的利用価値」、「興味価値」、「私的獲得価値」などの価値に関する得点において、入学直後（1年目春）の平均値が高かった。これは、学習に対する価値づけが高い状態で入学を迎えたということである。また、これらの学習の価値づけに関する平均値は、1年目秋以降の学生は低い傾向にある。学習に対する価値づけは高学年ほど低い、高学年の中で4年目の学生は学習に対する価値づけがやや高いようである。このような他の学年に比べて4年目の平均値が高い傾向は価値に関する得点以外でも見られた。

表1.1.1.1 8つの感じる力の平均値(全学生)

	効力予期	利用価値	社会的利用価値	興味価値	私的獲得価値	感情的要因	社会的環境	動機づけ総合指標
1年目春	3.20	4.21	3.87	3.61	4.24	3.03	3.58	-
1年目秋	3.23	3.89	3.69	3.38	3.91	2.86	3.50	3.40
2年目	3.16	3.73	3.53	3.27	3.79	2.78	3.48	3.39
3年目	3.21	3.68	3.53	3.36	3.78	2.68	3.50	3.44
4年目	3.32	3.67	3.54	3.37	3.75	2.81	3.53	3.52
全学年	3.23	3.76	3.58	3.34	3.82	2.79	3.50	3.43

※全学年の結果は、医学部医学科の5・6年生の回答も含む。

※平均値の幅は1～5点。中点は3点。

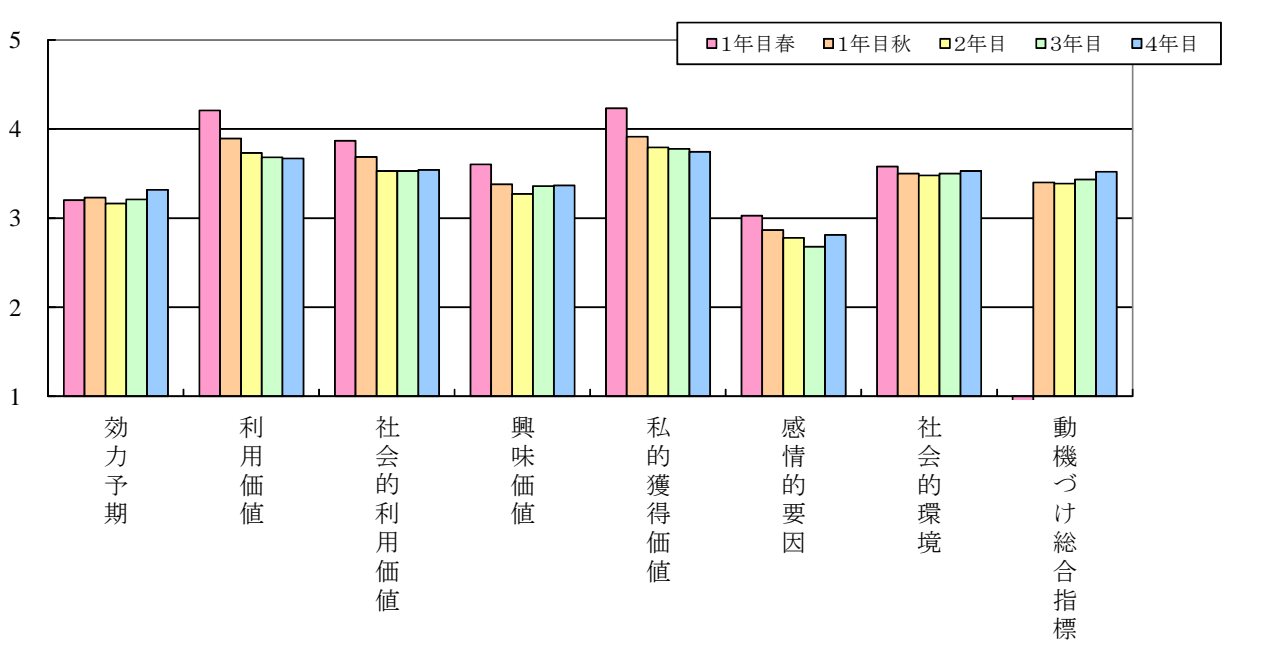


図1.1.1.1 8つの感じる力の平均値(全学生)

(2) 「心身の健康」に対する意識について

教育目標「感じる力」の一側面には、「心身の健康に対する意識」が挙げられている。これについて、在籍年数別に平均値を算出した。「1：心がけていない」から「5：心がけている」の5段階で回答を求めており、平均値が高いほどその項目の内容を意識して生活していることを表している。

その結果、「規則正しい生活を心がけている」について、どの学年もある程度は心がけているようであった。特に1年目秋と4年目の学生で平均値が高く、大学3年での平均値が低かった。3年になると生活習慣が乱れがちになるようである。

表1.1.1.2 規則正しい生活についての平均値(全学生)

	心規則が正 けしてい 生活 るを
1年目春	3.64
1年目秋	3.61
2年目	3.47
3年目	3.39
4年目	3.50
全学年	3.50

※全学年の結果は、医学部医学科の5・6年生の回答も含む。

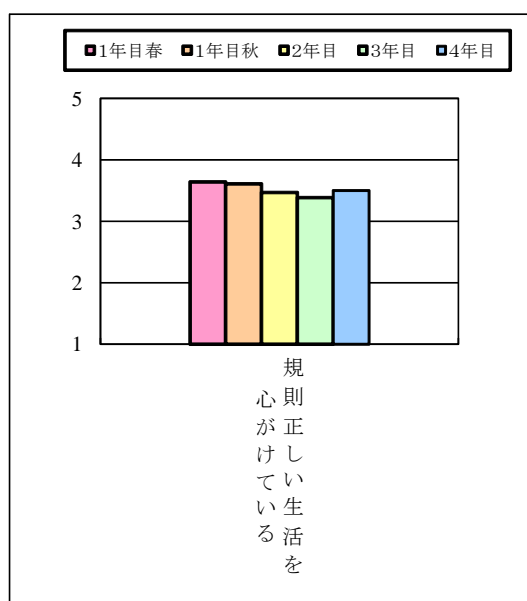


図1.1.1.2 生活習慣についての平均値(全学生)

(3) 「感じる力」の習得について

感じる力の習得に関する2項目について、在籍年数別に平均値を算出した。2項目とも「1：全くそう思わない」から「5：非常にそう思う」の5段階で回答を求めており、平均値が高いほどその項目の内容にあてはまることを表している。

その結果、「感じる力を苦勞してでも身につけたいと思いますか」について、どの学年も身につけたいと感じているようであった。特に1年目春の学生の平均値が高かった。一方、「感じる力は三重大の教育を通して身につくと期待しますか」について、1年目春に最も平均値が高く、高学年では平均値が低かった。高学年になると大学教育に対する期待はあまり高くないようである。

表1.1.1.3 感じる力の習得についての平均値(全学生)

	「感じる力を苦勞してでも身につけたいと思いますか」	「感じる力は三重大の教育を通して身につくと期待しますか」
1年目春	4.00	3.72
1年目秋	3.71	3.46
2年目	3.65	3.32
3年目	3.62	3.28
4年目	3.67	3.28
全学年	3.67	3.34

※全学年の結果は、医学部医学科の5・6年生の回答も含む。

※平均値の幅は1～5点。中点は3点。

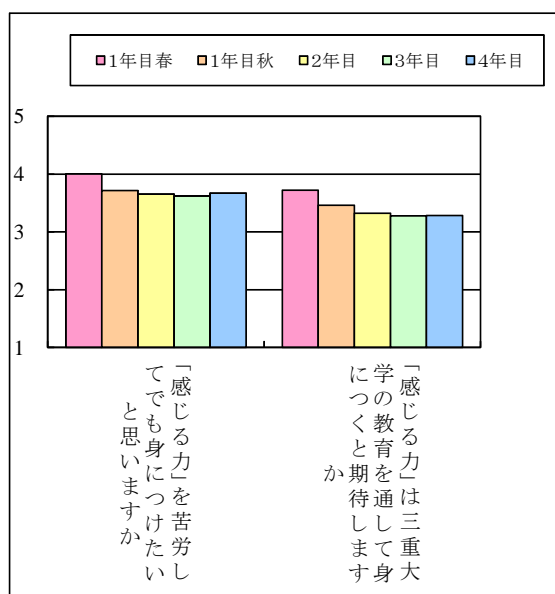


図1.1.1.3 感じる力の習得についての平均値(全学生)



1.1.2 全学生の「考える力」

(1) 8つの「考える力」について

本調査では、考える力について、志向性 12 項目と経験 12 項目を設定した。志向性、経験ともそれぞれ 4 つの概念に分類した。8 つの概念は、以下の通りである。

志向性	要点理解	問題の要点を素早くつかんで理解する人になりたい
	論理・証拠の重視	論理や証拠を重視し、それに基づいて考える人になりたい
	脱軽信	情報を鵜呑みにせず、いったん本当に正しいのかを疑ってみるような人になりたい
	決断力	物事に対して、いつまでも思い悩んだりせず、適切に決断する人になりたい
経験	要点理解	最近、問題の要点を素早くつかんで理解するという経験をした
	論理・証拠の重視	最近、論理や証拠を重視し、それに基づいて考えるという経験をした
	脱軽信	最近、情報を鵜呑みにせず、いったん本当に正しいのかを疑ってみる経験をした
	決断力	最近、物事に対して、いつまでも思い悩まず、適切に決断するという経験をした

志向性は、「1：全くなりたくない」から「7：非常になりたい」の7段階で回答を求めた。経験は、「1：全くしていない」から「7：いつもしている」の7段階で回答を求めた。これらの8つの考える力について、在籍年数別に平均値を算出した。平均値が高いほど、志向性はそのような人になりたいと思っており、経験は考える力を使うような経験していると感じていることを表す。なお、経験に関する項目は、大学での経験についてたずねる設問であるため、入学直後の調査1では質問項目に含めなかった。

その結果、志向性の「要点理解」について、どの学年も平均値が6点（7段階評定の「なりたい」）程と非常に高いことから、学生全体が問題の要点を素早くつかんで理解する人になりたいと考えているようである。志向性の「論理・証拠の重視」や「脱軽信」は入学時から緩やかに上昇し、高学年になると得点が高くなっていた。高学年になると論理や証拠を重視してそれに基づいて考えたり、情報を鵜呑みにせずに本当に正しいのかを疑ってみるような考える力を持つことを意識するようである。さらに、経験のどの得点も4年目の平均値が高かった。4年目の学生は、実際に考える力を使用するよう経験をしていると感じているようである。「要点理解」や「決断力」について、どの学年も志向性の平均値が高い一方、経験の平均値が低く、そのような考える力を持った人になりたいと思っているが、実際に経験できていないようである。

表1.1.2.1 8つの考える力の平均値(全学生)

	志向性				経験			
	要点理解	論理・証拠の重視	脱軽信	決断力	要点理解	論理・証拠の重視	脱軽信	決断力
1年目春	6.30	4.84	4.94	5.86	—	—	—	—
1年目秋	6.10	4.90	5.01	5.69	4.85	4.55	4.65	4.64
2年目	5.95	4.86	4.97	5.56	4.77	4.50	4.63	4.50
3年目	5.83	4.92	4.98	5.50	4.80	4.62	4.66	4.57
4年目	5.85	5.02	5.09	5.55	4.97	4.76	4.80	4.79
全学年	5.95	4.92	5.01	5.58	4.84	4.60	4.67	4.62

※全学年の結果は、医学部医学科の5・6年生の回答も含む。

※平均値の幅は1～7点。中点は4点。

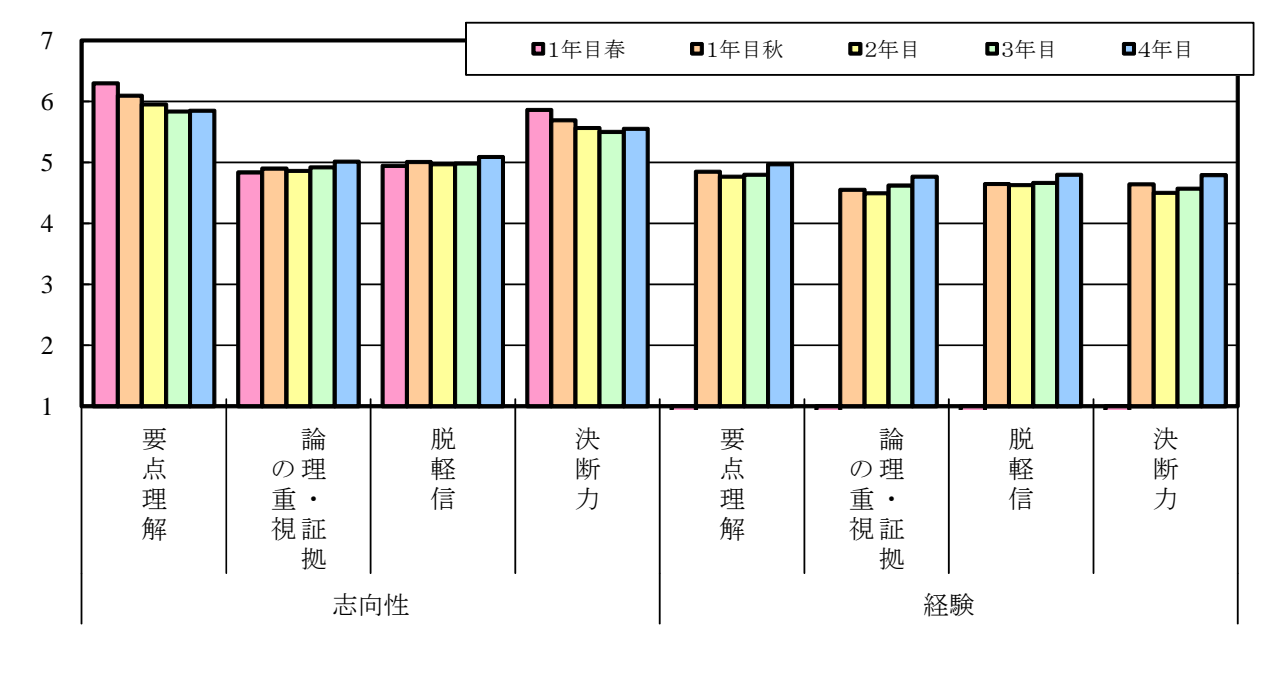


図1.1.2.1 8つの考える力の平均値(全学生)

(2) 「考える力」の習得について

考える力の習得に関する2項目について、在籍年数別に平均値を算出した。2項目とも「1：全くそう思わない」から「5：非常にそう思う」の5段階で回答を求めており、平均値が高いほどその項目の内容にあてはまることを表している。

その結果、「考える力を苦勞してでも身につけたいと思いますか」について、どの学年も身につけたいと感じているようである。一方、「考える力は三重大の教育を通して身につくと期待しますか」について、1年目春に最も平均値が高く、高学年ほど平均値が低かった。高学年ほど大学教育に対する期待はあまり高くないようである。

表1.1.2.2 考える力の習得についての平均値(全学生)

	「考える力を身につけたいと思いますか」と苦勞して	「考える力を身につけることは三重大の教育を通して身につくと期待しますか」と苦勞して
1年目春	4.16	3.84
1年目秋	3.99	3.68
2年目	3.89	3.59
3年目	3.85	3.54
4年目	3.86	3.55
全学年	3.90	3.60

※全学年の結果は、医学部医学科の5・6年生の回答も含む。

※平均値の幅は1～5点。中点は3点。

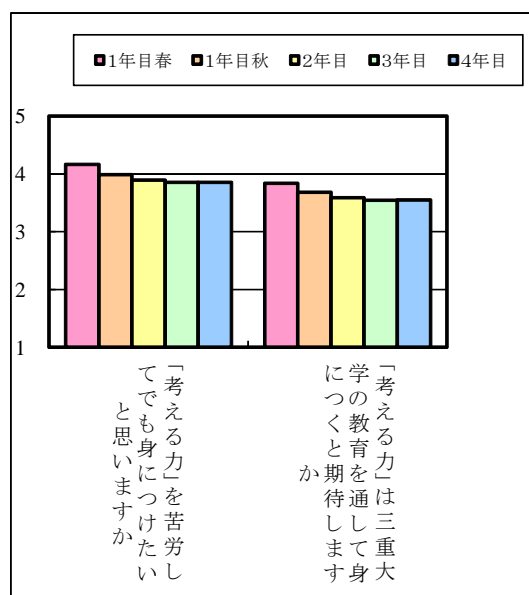


図1.1.2.2 考える力の習得についての平均値(全学生)



1.1.3 全学生の「コミュニケーション力」

(1) 10種の「コミュニケーション力」について

本調査では、コミュニケーション力について、志向性9項目と経験9項目、自信4項目を設定した。志向性、経験ともそれぞれ3つの概念に分類した。10種の概念は、以下の通りである。

志向性	多様性理解	人によっていろんな意見を持っているという多様性を理解する人になりたい
	他の理解	他者の考えや意見について理解する人になりたい
	真正性	他者の考えに対して、正しいところと間違っているところを指摘できる人になりたい
経験	多様性理解	最近、人によっていろんな意見を持っているという多様性を理解するという経験をした
	他の理解	最近、他者の考えや意見について理解するという経験をした
	真正性	最近、他者の考えに対して、正しいところと間違っているところを指摘するという経験をした
自信	英語コミュニケーション	英語でのコミュニケーションに自信がある
	ディスカッション	ディスカッションすることに自信がある
	プレゼンテーション	プレゼンテーションすることに自信がある
	友人コミュニケーション	友人との良好なコミュニケーションに自信がある

志向性は、「1：全くなりたくない」から「7：非常になりたい」の7段階で回答を求めた。経験は、「1：全くしていない」から「7：いつもしている」の7段階で回答を求めた。自信は「1：全く自信がない」から「5：非常に自信がある」の5段階で回答を求めた。これらの10種のコミュニケーション力について、在籍年数別に平均値を算出した。平均値が高いほど、志向性はそのような人になりたいと思っており、経験はコミュニケーション力を使うような経験していると感じていることを表す。なお、経験に関する項目は、大学での経験についてたずねる設問であるため、入学直後の調査1では質問項目に含めなかった。

表1.1.3.1 10種のコミュニケーション力の平均値(全学生)

	志向性			経験			自信			
	多様性理解	他の理解	真正性	多様性理解	他の理解	真正性	英語コミュニケーション	ディスカッション	プレゼンテーション	友人とのコミュニケーション
1年目春	5.84	5.99	5.51	—	—	—	1.92	2.49	2.29	3.24
1年目秋	5.65	5.76	5.43	5.02	5.24	4.53	2.31	2.73	2.64	3.33
2年目	5.55	5.65	5.35	4.88	5.09	4.50	2.28	2.69	2.59	3.26
3年目	5.50	5.57	5.33	4.91	5.05	4.61	2.33	2.76	2.72	3.30
4年目	5.57	5.61	5.35	5.04	5.19	4.69	2.35	2.93	2.81	3.36
全学年	5.57	5.65	5.37	4.96	5.14	4.57	2.31	2.76	2.68	3.31

※全学年の結果は、医学部医学科の5・6年生の回答も含む。

※平均値の幅は志向性と経験が1～7点。中点は4点。自信は1～5点。中点は3点。

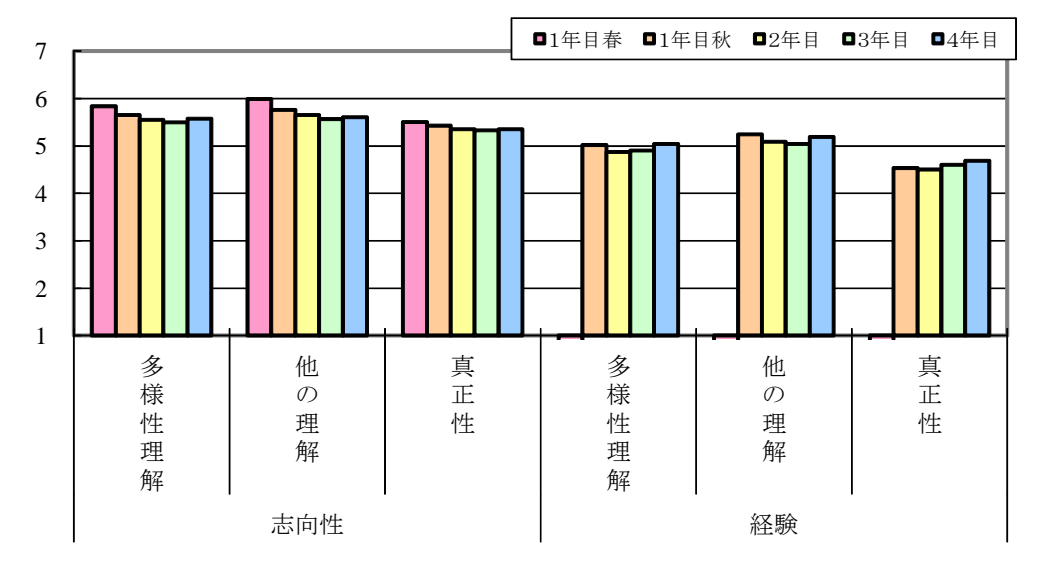


図1.1.3.1 コミュニケーション力 志向性と経験の平均値(全学生)

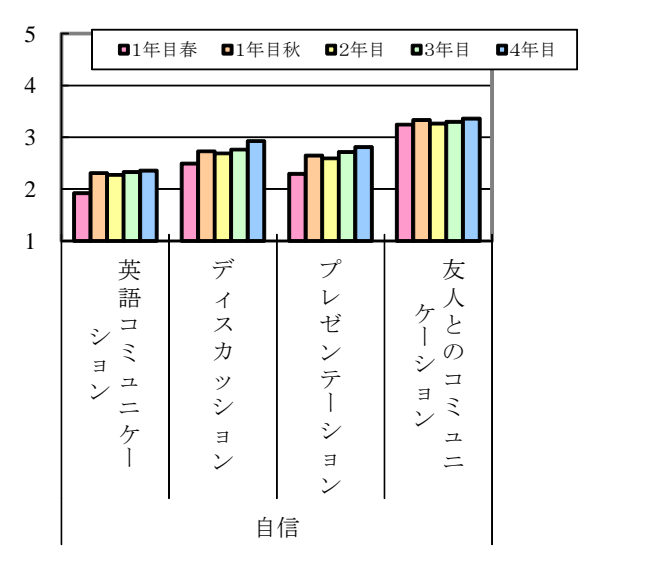


図1.1.3.2 コミュニケーション力 自信の平均値(全学生)

その結果、「多様性理解」と「他の理解」について、志向性は1年目春の平均値が、経験は1年目秋と4年目の平均値が高かった。1年目の学生と4年目の学生は人によっていろんな意見を持っているという多様性を理解し、他者の考えや意見を理解する人になりたいと感じ、実際にそれらの経験をしているようである。自信に関して、どの得点も1年目春の平均値が低く、4年目の平均値が高い傾向がみられた。これらのコミュニケーションについて、入学直後（1年目春）の学生はコミュニケーションに自信が持てないが、4年目の学生は自信を持つようである。とはいえ、「英語コミュニケーション」や「ディスカッション」、「プレゼンテーション」に対する自信は、全ての学年で中点の3点（どちらともいえない）を下回っており、英語を用いたコミュニケーションやディスカッション、プレゼンテーションにやや自信が持てていないようである。

(2) 「コミュニケーション力」の習得について

コミュニケーション力の習得に関する2項目について、在籍年数別に平均値を算出した。2項目とも「1：全くそう思わない」から「5：非常にそう思う」の5段階で回答を求めており、平均値が高いほどその項目の内容にあてはまることを表している。

その結果、「コミュニケーション力を苦勞してでも身につけたいと思いますか」について、すべての学年で平均値が4点（5段階評定の「そう思う」）程と高く、どの学年も身につけたいと感じているようである。特に1年目春の学生の平均値が高かった。一方、「コミュニケーション力は三重大学の教育を通して身につくと期待しますか」について、1年目春に最も平均値が高く、高学年ほど平均値が低かった。高学年ほど大学教育に対する期待はあまり高くないようである。

表1.1.3.2 コミュニケーション力の習得についての平均値(全学生)

	を「 い苦 と勞 思し でケ いも ま身 すに かけ た」	身は「 に三 つ重 く大 と学 期ケ 待教 し育 しま す通 すし か」
1年目春	4.39	3.90
1年目秋	4.17	3.63
2年目	4.07	3.42
3年目	3.96	3.34
4年目	3.95	3.38
全学年	4.05	3.45

※全学年の結果は、医学部医学科の5・6年生の回答も含む。

※平均値の幅は1～5点。中点は3点。

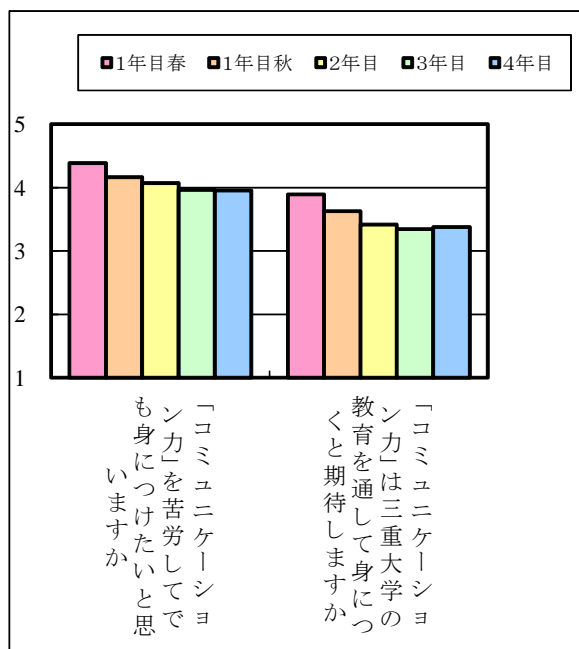


図1.1.3.3 コミュニケーション力の習得についての平均値(全学生)



1.1.4 全学生の「生きる力」

「生きる力」の習得について

生きる力の習得に関する2項目について、在籍年数別に平均値を算出した。2項目とも「1：全くそう思わない」から「5：非常にそう思う」の5段階で回答を求めており、平均値が高いほどその項目の内容にあてはまることを表している。

その結果、「生きる力を苦勞してでも身につけたいと思いますか」について、1年目春に最も平均値が高く、高学年になると低下していた。ただし、平均値は4点（5段階評定の「そう思う」）に近く、ほとんどの学年において身につけたいと感じているようである。一方、「生きる力は三重大の教育を通して身につくと期待しますか」について、1年目春に最も平均値が高く、高学年ほど平均値が低かった。高学年ほど大学教育に対する期待はあまり高くないようである。

表1.1.4.1 生きる力の習得についての平均値(全学生)

	も一 身生 にき つる け力 た一 かいを と苦 思勞 いし まで すで	教一 待育生 をき し通る し力 て一 ま身は すつ重 く大 かと学 期の
1年目春	4.32	3.84
1年目秋	4.00	3.55
2年目	3.94	3.42
3年目	3.80	3.30
4年目	3.85	3.34
全学年	3.91	3.41

※全学年の結果は、医学部医学科の5・6年生の回答も含む。

※平均値の幅は1～5点。中点は3点。

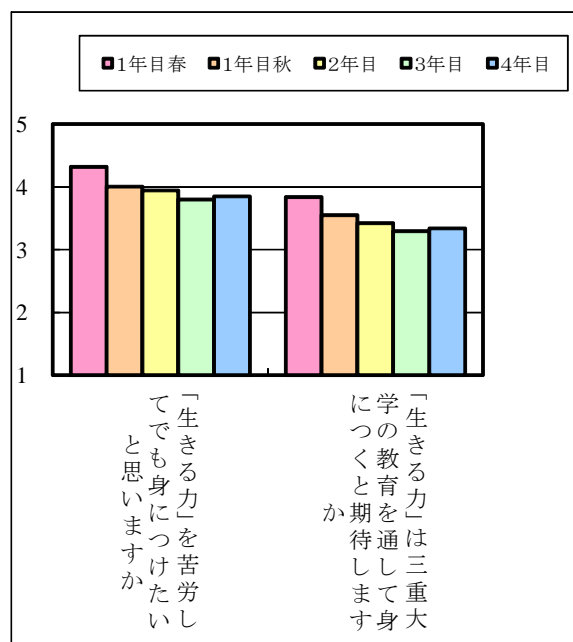


図1.1.4.1 生きる力の習得についての平均値(全学生)